

入選

魔法の言葉「ありがとう」

埼玉県 南中学校 一年

栗矢 樹奈

私は親に買い物を頼まれたため、品物を持ちレジに並んでいた。しかし、塾の時間が刻一刻と迫っている。「早く行かなきゃいけないのに」と、じれったい気持ちで並んでいると、前に並んでいるおばあさんが、私が時間を気にしているのがわかったのか、順番を譲ってくれた。

そのとき私は、びっくりしていたため、「ありがとうございます」と小さな声でしか言えなかった。おばあさんには、聞こえていないようだ。私は「ありがとうなんて、そこまで関係ないよね」と思った。

それから少し経ったある日、白杖をかかげている女の人を見かけた。私は勇気を出して、

「どうしたんですか？」

と聞いた。その人は、

「駅には、どうやって行くんですか？迷ってしまって……。」

と言った。私もちょうど駅に行く途中だったので、肘を持ってもらい案内した。私は、夢でも見ているのかと思った。駅に着くとその人は、

「本当にありがとうございます。」

と言ってくれた。私も、

「どういたしまして。」

と相手に伝わるように言った。その人はとても嬉しそうに去り、私も嬉しかった。

「ありがとうを大切にしてください。」

私は、幼い頃からそう言われながら育ってきた。では、親切にすることはそもそも何なのだろうか。私はこの頃、そんな疑問を持ち始めていた。身近な親切、例えば毎日ご飯が食べられること、学校に通えることなど考えたら無数にある。そんな身近な親切を、私は当たり前にしてしまっていたのだ。

しかし、あの女性に「ありがとう」と言われて、「ありがとうを大切にしてください」と言われてきた理由がやっとわかった。

「ありがとう」と伝えると、みんな笑顔になる。「ありがとう」は魔法の言葉だ、そう思った。

私はそれに気づいてから、小さな親切に対しても「ありがとう」と言うようになった。